

07 今後の経済発展のカギを握る「インフラ整備」

先に挙げたすべての要素を生かすも殺すも、今後のインド国内のインフラ整備次第です。ここでは、インドのインフラ事情についてみてみましょう。

インドのインフラ事情

そもそもインフラとは、「インフラストラクチャー (infrastructure)」を縮めた言葉で、「社会的生産基盤」と訳されます。道路、港湾、空港、工業用水、農業基盤、下水道、次世代情報通信網など経済発展の基盤となる公共施設を指します。このインフラの整備には、莫大な資金が必要なこと、またこれらの施設が生み出すサービスが国民全体に影響を及ぼすことなどの理由によって、政府の指揮の下で行われ、その施設を利用することで、企業や個人の経済活動がさらに発展します。

インドにおいても、通信インフラがなければ携帯電話は売れず、道路がなければ車を買う人がいるはずもなく、巨大な消費市場が停滞します。また、長年、インドの工業部門が伸び悩んだ理由の1つに、エネルギーの供給不足による工場の稼働率の低さが挙げられるように、豊富な労働力を活かすチャンスをも失うことになります。

●デリーの道路



デリーの道路という道路は穴だらけ。メトロ開通の難点は、上下水道や電力、光ファイバーなど今まで地中に埋めてあったものを移動させなければならぬこと。

●ショッピングモール建設予定地



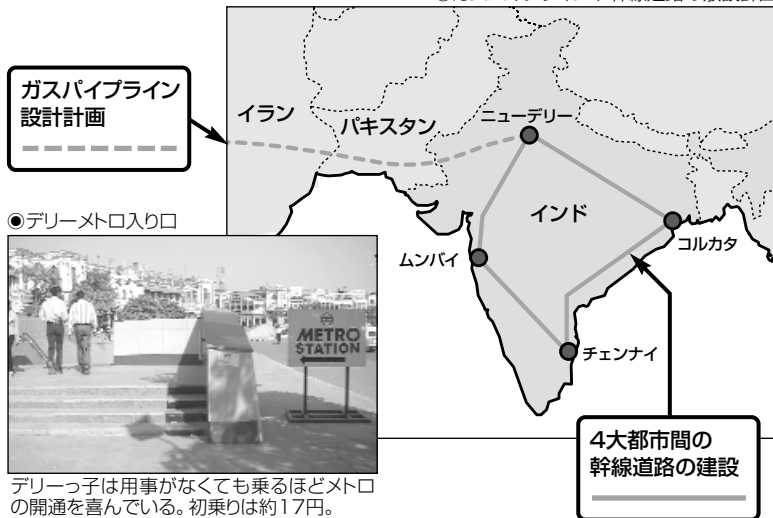
デリー地下鉄直結の大型ショッピングモールの建設予定地。デリーっ子たちが完成を心待ちにしている。

進むインフラ整備

現在、日本の政府開発援助 (ODA) によるデリー-高速鉄道「デリー-メトロ」の建設・開通が進められている他、インドの主要都市を結ぶ幹線道路の整備も急ピッチで進められています。幹線道路の慢性的な渋滞や空港施設の老朽化、ブロードバンド普及率の低さ、日常的な停電・断水などのために、外国企業の誘致のチャンスを逸してきたインドは、改めてインフラ整備を最優先課題として動き始めました。インド全土に渡ってインフラ整備を行うために必要な莫大な資金の調達方法として現在進行しているのが、公営企業の株式公開です。現政府は、公営企業十数社を株式売却候補とし、2005年度中にも1,000億円規模の資金調達を行ってインフラ整備に充てる方針を打ち出しています。

こうしたインド政府主導の動きが引き金となって、今後ますますインフラ整備が進むことは確実で、このインフラ整備の進行とともにインド経済は、路面滑走から滑空 (テイク・オフ) 状態になると予想されています。

●ガスパイプラインや幹線道路の敷設計画



●デリー-メトロ入り口

デリーっ子は用事がなくても乗るほどメトロの開通を喜んでいる。初乗りは約17円。

4大都市間の幹線道路の建設